

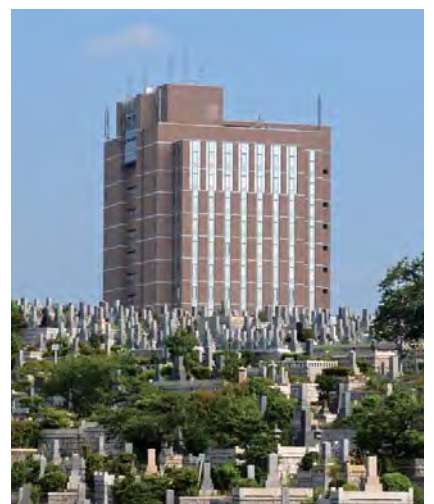
農学部の新築記録（平成 11 年から平成 22 年まで）

平成 11 年（1999 年）4 月、農学部は農学科を生物資源学科に、農芸化学科を応用生物化学科に改組を行い、入学定員をそれぞれ 115 名としました。しかし水面下では、3 学科体制にすることが議論され始め、同時に老朽化した 5 号館の新築、もしくは改築も話題になっていました。

折しも、平成 13 年（2001 年）に名城大学が開学 75 周年を迎えることから、名城大学再開発第一期第一次計画がスタートしており、大学のシンボルとなる 17 階建ての高層棟（タワー 75）と、1 号館の代替施設で全学部が共同使用する共通講義棟（南館）の建設が決定していました。これらの施設は平成 14 年（2002 年）に完成しました。引き続き再開発第一期第二次計画がスタートし、1 号館が解体され、その跡地に 2 番目の共通講義棟（北館）の建設が決定していました。



平成 15 年（2003 年）7 月、1 号館解体により北側から 5 号館が良く見える状態。



この再開発計画の流れの中、当時の原彰農学部長（後に、副学長）は農学部の3学科体制問題と老朽化した5号館の建て替え問題を同時に進行させ、議論の委託を受けた農学部将来計画検討委員会において議論が進められていった。3学科体制では、これまでの入学定員より70名多い300名とすることになったが、既存の5号館と9号館ではとてもそれだけの学生数を収容することはできないからである。

平成14年（2002年）になると新居直祐農学部長の下、農学部将来計画検討委員会（委員長：船隈透教授）において具体的な議論が進み、同年7月22日の委員会において、新しい学科名称を生物環境科学科とすること、3学科とも募集定員を100名、合計300名とすること、各学科7研究室14名の教員数を目標とすること、などが決定され、教授会に提案されました。

一方、再開発第一期第二次計画では、天白1号館の跡地に共通講義棟北館を建てることになっていたが、この共通講義棟北館の付随施設として、5号館を建て替えることになり、平成14年7月23日付け再開発第二次計画基本設計書において、共通講義棟北Ⅱ（現在の研究実験棟Ⅰ）の名称で建物が盛り込まれました。

しかし上述のように、大学は特定の学部には所属する建物を建てない方針であったため、共通講義棟北Ⅱには、もはや農学部の看板を掲げられないことになった。また、共通講義棟北Ⅱは建物を高層化できず、農学部の床面積不足分を解消できないため、共通講義棟北館の地階にも、4つの学生実験室を入れることになった。有毒ガスを出しかねない化学実験室を地階に持ってくることに對して、いささか抵抗がなかったわけではないが、もはや背に腹は代えられない状況であった。こうして、船隈透協議員が農学部再開発実行委員長に指名され、5号館の建て替えが具体化することになりました。



平成17年（2005年）11月、5号館正面。



農学部同窓会が寄贈した5号館前庭。松と白い石のコントラストが際立っていた。



平成 17 年（2005 年）11 月，温室側より 5 号館を望む。



2005 年頃の 5 号館
(永井孝撮影)

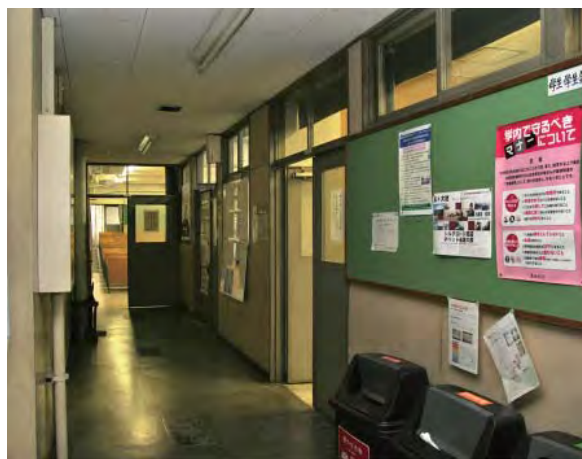


2005 年頃の 5 号館（高層棟より，永井孝撮影）



平成 17 年（2005 年）11 月，9 号館





2005 年頃の 5 号館内部 5-402, 5-404 講義室 (永井孝撮影)



2005 年頃の 5 号館内部 5-408, 5-415 学生実験室 (永井孝撮影)

平成 17 年（2005 年）4 月，農学部は生物資源学科（旧，農学科）と応用生物化学科（旧，農芸化学科）の 2 学科体制から，生物環境科学科を加えた 3 学科体制に移行しました。

平成 17 年（2005 年）7 月，1 号館跡地に共通講義棟北館が完成し，引き続き 5 号館 1 階の事務組織が北館 2 階に，5 号館 1 階と 4 階の学生実験室が北館地階に移転しました。また，5 号館 2 階と 4 階の教室機能は全て共通講義棟に移りました。空になった 5 号館南側の 1 階事務室跡と，4 階の 402・404 教室が仮設研究室に改装されました。

平成 17 年 11 月，5 号館 3 階北側にあった応用生物化学科と生物環境科学科の研究室が 5 号館南側の 4 階と 1 階，ならびに共通講義棟地下の学生実験室に仮移転しました。こうして 5 号館北側は完全に空になり，平成 18 年 1 月より解体工事が始まり，4 月にはさら地になりました。仮移転した研究室は，一時的とはいえ，非常に不自由な生活を送ることになりました。

平成 18 年（2006 年）秋より，5 号館北側跡地に共通講義棟北館の付随施設として研究実験棟 I の建設が始まり，平成 19 年 6 月に完成しました。まだ 5 号館南側が残っていたため，全貌は見えませんが，東側から見ると共通講義棟北館と一体の建物でした。また，平成 19 年 5 月から 9 号館の北側にエレベーター設置工事が開始され，7 月に完成しました。

平成 19 年（2007 年）7 月，応用生物科学科と生物環境科学科の研究室が研究実験棟 I へ引っ越しを開始しました。5 号館南側，共通講義棟地下，そして 9 号館 3 階から，研究実験棟 I へ大規模な引っ越しが行われました。そして，5 号館南側 2 階には生物資源学科の 2 研究室が最後の最後まで取り残されることになりました。



2006 年（平成 18 年）1 月，5 号館遠景。まだ残っている。



前庭が一時的に削り取られる。



2006 年（平成 18 年）3 月，5 号館北側部分が解体され，1 号館跡地に建てられた共通講義棟北館が姿を現す。



2007 年（平成 19 年）9 号館にもエレベーターがつく

平成 19 年（2007 年）10 月，9 号館 4 階の全域と 3 階北側は引越しで空になり，大規模な改修工事が開始され，翌年 2 月に工事が完了しました．また，この工事に合わせ，9 号館 1 階と 4 階に広い女子トイレが新たに設置され，ついでに施設営繕費と農学部後援会の援助で 1 階の生物系学生実験室も改装されました．平成 20 年 1 月から 5 号館前庭の解体が始まり，農学部同窓会寄贈の太い赤松は岩と共に天白キャンパスの北角に移植されましたが，他の木は残念ながら全て切り倒されてしまいました．また，5 号館南側のコイトロン 3 台は廃棄され，9 号館南側に 2 台が新設されました．

平成 20 年（2008 年）3 月，5 号館南側 2 階に残っていた生物資源学科の 2 研究室が 9 号館 4 階と 3 階に引っ越ししました．同年 4 月，5 号館は 42 年の歴史に幕を閉じ，完全に解体されてしまいました．同年 5 月，研究実験棟 I が姿を現し，5 号館南側の跡地には芝生が植えられ，旧 1 号館との間にあった段差は幅広い階段に整備され，翌年の冬，階段横に農学部同窓会寄贈の赤松が再び移植されました．以上で，第一期第二次再開発が終了しました．



2008 年（平成 20 年）1 月，
5 号館南側解体準備．前庭解体，松を移転．



2007 年（平成 19 年）6 月，5 号館跡地に研究実験棟 I が建つ。
まだ 5 号館南側は残っている．



嗚呼！ 5号館解体 2008年（平成20年）初夏





2008 年（平成 20 年）夏，ついに 5 号館は完全に消滅してしまいました．左側には 9 号館がありますが，クラブハウス（8 号館）の陰になってほとんど見えません．



左側が共通講義棟北館，右側が研究実験棟 I



応用生物化学科と生物環境科学科が入った研究実験棟 I



農学部同窓会が寄贈した松は 10 号館下に移植．



クラブハウス（7 号館）から見た芝生広場と人工の滝．
左側が 10 号館，奥が共通講義棟南館，右側が共通講義棟北館．



← 9 号館南側．コイトトロンが新設されましたが，イチヨウは伐採されました．

一方、昭和 58 年（1983 年）に建てられた 9 号館もインフラの老朽化が問題になってきたが、特に厚さ 1cm 以上あるアスファルトの床は機器の重さや椅子の車輪によって凸凹ができやすく、長年、歩行の危険性や美観の問題が指摘されてきました。そこで、生物資源学科から平成 20 年に修理の要望が出され、平成 21 年度の大学の修理営繕費により床の張り替え工事が認められました。

平成 21 年（2009 年）7 月、9 号館第 2 期改修工事実行委員会が形成され、1 階の共通実験室、2 階の 3 研究室、3 階の 1 研究室ではアスファルト床の張り替えることになりました（一部、例外あり）。また、タイル床の研究室では床洗浄を行うことになりました。さらにこの議論の中で、1 階の共通実験室の老朽化した大型施設の存続が問題となり、この機会に全てを撤去して床の張り替えをすることとなりました。なお、工事期間中の室内の荷物は 9 号館の 1 階と 4 階に仮移転しました。

平成 22 年（2010 年）2 月から順次、引っ越しと床工事が開始され、3 階、2 階、1 階の順に進められ、3 月末日までに全ての工事を完了しました。工事前は、研究室の床そのものが凸凹していましたが、アスファルト床をはがした後、凝固剤を混ぜた液状のセメントが流し込まれ、あたかも田植え前の水田のように水平にセメントが張られました。驚きの工法です。後日、研究室の書庫や機器類を元の位置に設置したところ、元の位置と高さが微妙に狂っていたことは言うまでもありません。



床工事前の 9 号館の研究室（1）



床工事前の 9 号館の研究室（2）



床を剥がした後、セメントを流し込んだ



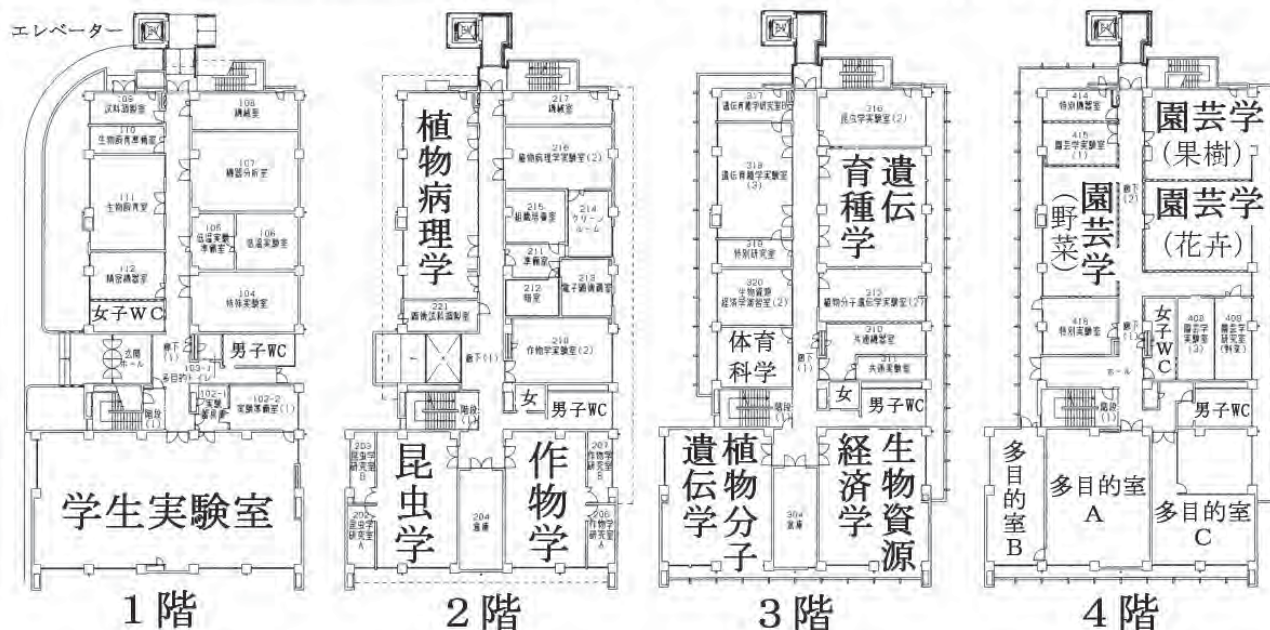
床工事が完了した 9 号館の研究室



おまけ：人工芝に張り替えられた第一グラウンド（左）、第二グラウンド（中）（平成 22 年 5 月 15 日、農学部スポーツ大会）

天白9号館 配置図

農学部生物資源学科が入っています



研究実験棟 I (E) 配置図



農学部

応用生物化学科
生物環境科学科
の14研究室が
入っています。

どの階からも
共通講義棟北館に
行けます。
(左側出入口)



大学全景



スクールバス



研究実験棟 I の東側と北側

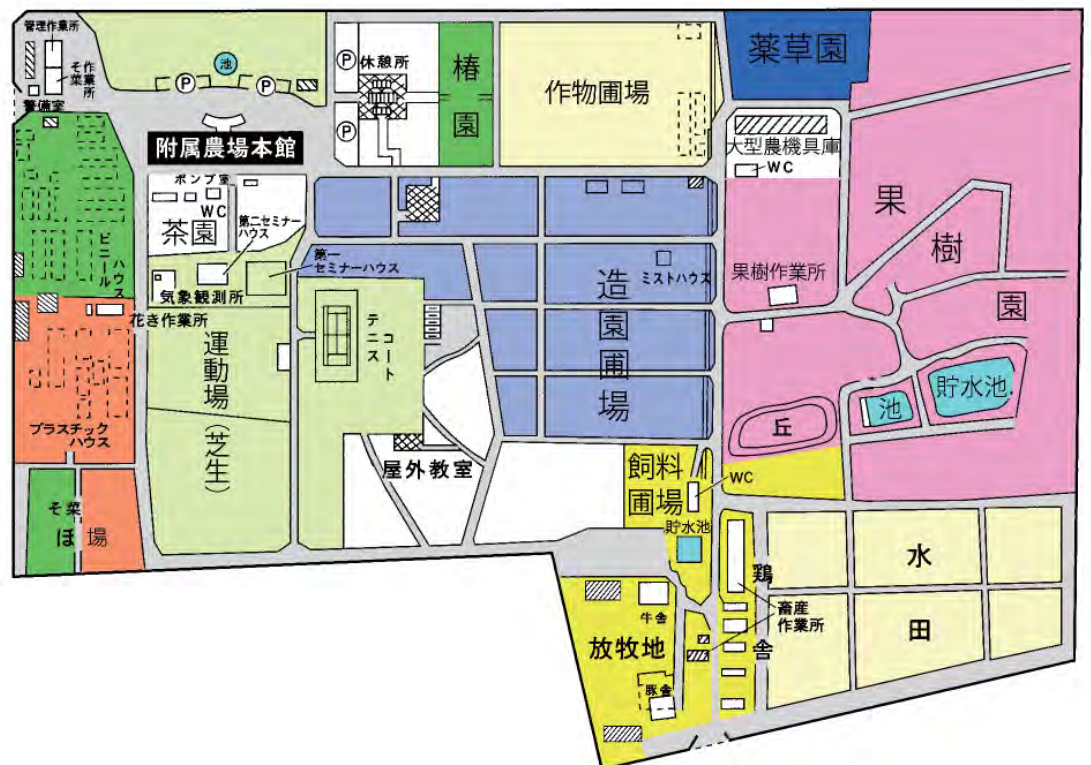


天白キャンパス

平成23年（2011年）現在



以上で、農学部为天白キャンパスの改築・改修工事はほぼ完了した。残るは農場の施設、とりわけ本館の建て替えが課題となっている。平成22年に春日井市から、農場に隣接するグラウンドの拡張計画が示された。計画では、現在の畜舎のある一帯を買収したいらしいが、簡単に農場を切り売りするわけにもいかず、交渉が進行中である。ともかく、これを契機に、農場本館の建て替え計画が前進することを願わずにはいられない。



おまけの資料：昔の天白キャンパス



昭和 43 年（1968 年）の天白キャンパス
5 号館は建設中！



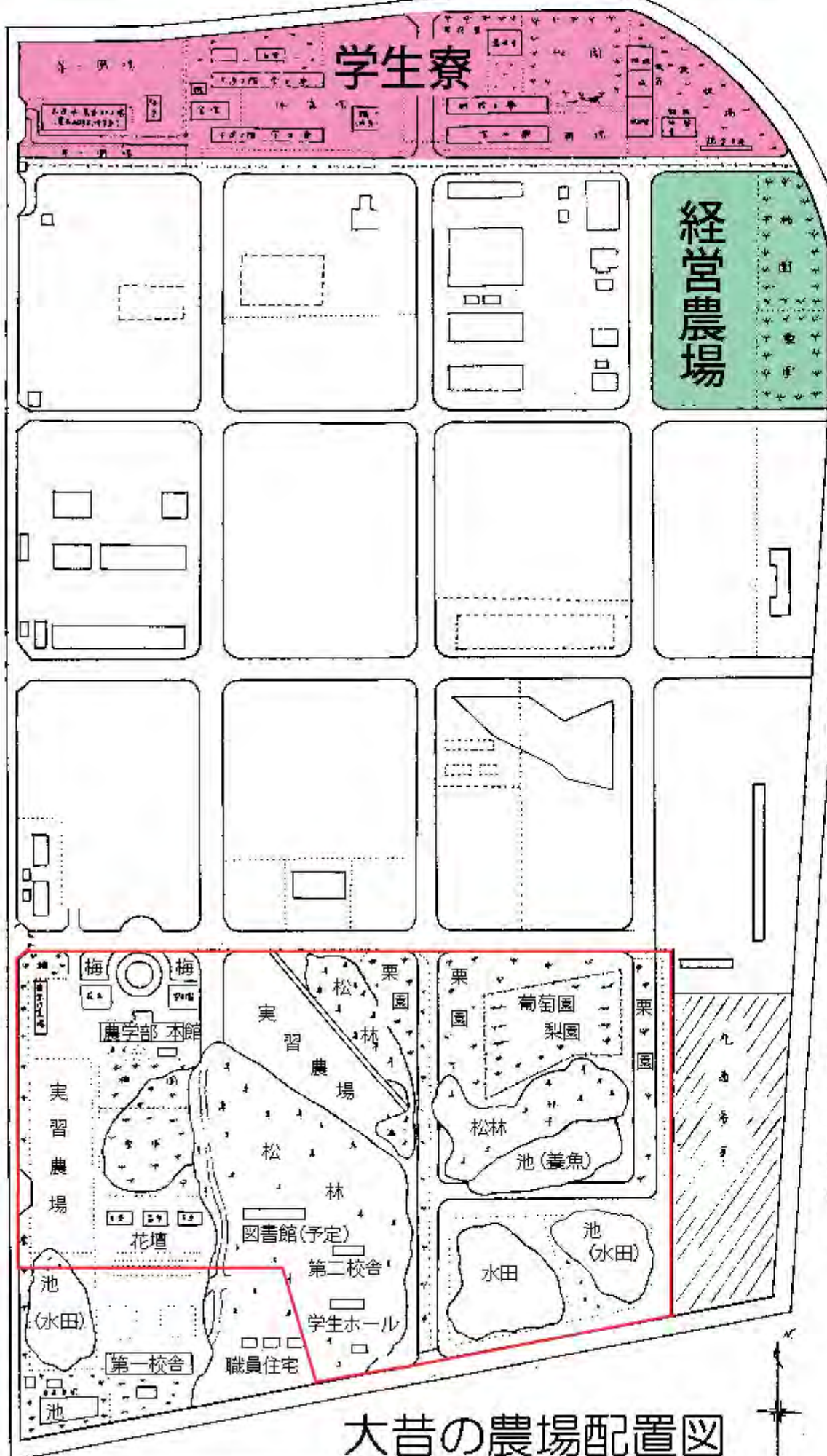
昭和 44 年～ 50 年頃の 5 号館.



昭和 30 年頃の農場本館

昭和30年頃の農学部本館





利用計画図

備考、本図は、昭和二十二年九月に作成されたもので、現在とは多少の相違がある。

赤い線で囲んだ部分が現在の農場

大昔の農場配置図